**1891年(明治24年) 明治中期**

明治24年は事件続きの年だった。1月には開院したばかりの帝国議事堂（初代）が漏電により火災焼失、また、第一高等中学校のクリスチャンの教員の内村鑑三（後の文学者）が「教育勅語」の朗読に消極的だったことで生徒が騒ぎ、キリスト教は非愛国的とされる事件（内村鑑三不敬事件）が問題となった。3月には「立憲自由党」がかつての「自由党」の党名に復帰し、5月には松方正義が第4代内閣総理大臣に任命され、松方内閣が組閣されたが、同じ5月には来日中のロシア帝国の皇太子ニコライ（後の最後のロシア皇帝）が滋賀県の大津で暴漢に襲われ、頭部に負傷する事件（大津事件）が起こり、さらに10月末には濃尾地方（岐阜県・愛知県）にM8.0の明治時代最大の内陸大地震（濃尾大地震）が日本の中央部が襲われた。

【参考年表】

1月

帝国議事堂（初代）が火災焼失

3月

立憲自由党→自由党

5月

松方内閣が組閣

大津で来日中のロシア皇太子襲われる（大津事件）

9月

上野～青森の間に鉄道開通（現・東北本線）

10月

濃尾大地震

帝国議事堂（二代目）が竣工

※この年「オッペケペー節」が流行